

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語43人 算数43人 理科43人

第5学年 国語50人 算数50人 理科50人

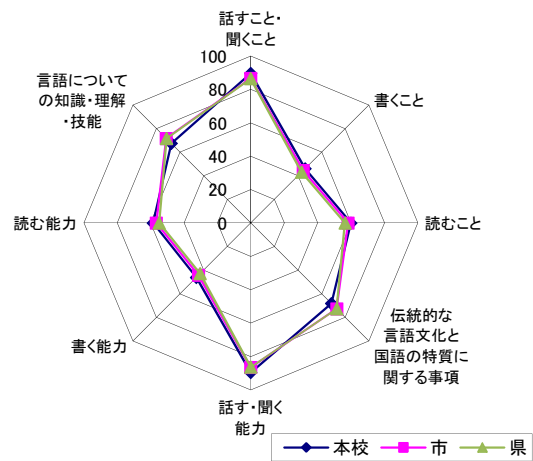
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	89.7	86.5	86.3
	書くこと	46.1	44.3	43.0
	読むこと	59.9	58.2	56.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	72.7	72.7
観点	話す・聞く能力	89.7	86.5	86.3
	書く能力	46.1	44.3	43.0
	読む能力	58.5	56.7	54.9
	言語についての知識・理解・技能	67.3	71.6	71.5



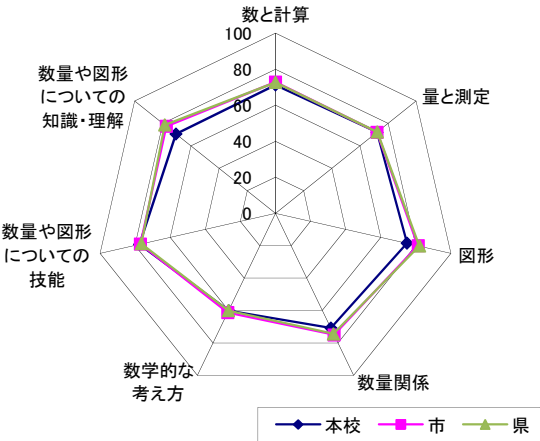
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は89.7%で市・県と比べて3ポイント高くなっている。特に、お互いの考えや共通点や相違点を整理して聞くことができるかを問う問題では、6ポイント上回っている。	・テストでの聞き取りはポイントを押さえて聴くことができたが、授業内容や発問など日常生活でも1回の指示で大事なことを聞き取れるように繰り返し指導していく。 ・国語の授業だけでなく、学級活動や会話科のことばの時間を有効に活用し、言語活動を重視したコミュニケーション能力の育成を図る。
書くこと	○領域の平均正答率は46.1%で、県と比べて3ポイント高い。 ●書くこととすることの中心を明確にし、記述する問題は48.8%、お礼の手紙を適切な順序と言葉づかいになおす問題では26.2%と正答率が低い。常体と敬体の使い方や大事なことを落とさずに文章を書くことに課題が見られる。	・日常生活での敬語の指導を充実させ、さらにお世話になった方たちへお礼の手紙を書く際に、一人一人の手紙を書く能力に応じて支援・指導をしていく。 ・国語の授業において、相手や目的に応じて必要な事柄を落とさずに順序立てて書くこと、表書きや後付けの正しい位置や形式など、手紙の書き方の基本を押さえて指導していく。
読むこと	○領域の平均正答率は59.9%で、県と比べて3ポイント高い。物語の内容の理解は県平均とほぼ同じ正答率だった。説明文の内容の理解では目的や必要に応じて、中心となる語や文をとらえる問題は県より11ポイント高かった。 ●物語文の叙述を基に、場面の移り変わりを読むことが38.1%と正答率が低い。	・国語の授業において、物語文では叙述を基にして登場人物の気持ちを想像したり、場面の移り変わりを読み取ったりする指導をしていく。 ・児童は好んで読書をしているが、分類に偏りがあるので、いろいろな種類の本を読む機会を設け、文と文のつながりに注意して読んだり、場面の移り変わりを読み取ったりできるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み・書きについては県平均とほぼ同じ正答率だった。 ●領域全体の平均正答率は68.3%で、市、県と比べて4ポイント低い。特にローマ字、対義語、主語と述語などの文法的な分野で課題が見られる。	・文章を書く際には、既習漢字を意識して適切に使うよう指導をする。また、国語辞典や漢字辞典を用いて語彙を増やすよう日常的に指導していく。 ・毎日の漢字練習の宿題で、当該学年だけでなく既習漢字も合わせて練習させ、繰り返し学習する態度を身につけさせる。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.3	72.9	72.6
	量と測定	72.2	72.2	72.3
	図形	75.0	81.3	82.0
	数量関係	70.8	75.0	74.4
観点	数学的な考え方	60.0	61.2	60.1
	数量や図形についての技能	77.5	76.9	76.4
	数量や図形についての知識・理解	70.7	77.6	78.6



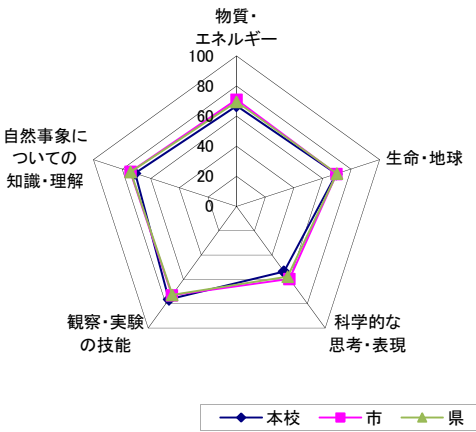
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○基本的な加法、乗法、除法の計算はよくできていて、市や県と比べても遜色ない。 ●大きな数・小数・分数など数の概念については県平均や市平均より6ポイント低い。また、基本的な計算はできているが、()が入ったり乗法が3つ以上になるなど複雑になるとできない。	・小数や分数などの概念的な部分に苦手意識を持っている。目に見えない部分をどう表現するかを理解する必要がある。実際に数直線で表してみるなどして、視覚化を図っていく。 ・複雑な計算は、一気にたくさんの処理をしてわからなくなってしまう。1つずつ計算するようにしていき、基本的な計算の繰り返しであることを理解するように指導していく。
量と測定	○ある時刻から一定時間後の時刻を求める問は、県平均と比べ5.7ポイント高い。 ●身近にあるものの重さを推察する問いの正答率では、8.1%で課題が見られる。	・算数は、身近なものと密接に関わっているということが理解できるように、身近な物の重さを予想したり、実際に重さや長さなどを計ったりして、理解を深めるようにしていく。
図形	●領域での正答率は、75%と県平均や市平均に比べて6.9ポイント低い。特にその中でも、円の直径を理解しているかでは13ポイント、正三角形の定義を理解しているかでは、10ポイント低い。形を見て、正三角形とは分かるがどういったものが正三角形かと問われると分からなくなってしまう。また、作図においても、6.5ポイント低い。	・形を憶えるだけでなく、どういったものがその形になるかという概念的に理解できるように指導する。 ・作図の書き方の練習を多く取り入れ、コンパスや分度器の扱い方を含め、正しい知識の習得を図る。
数量関係	○□を使った乗法の式に合った文章題を選ぶ問題では、県平均より1.8ポイント高い。 ●領域の正答率は、県平均より3.6ポイント市平均より4.2ポイント低い。特に、棒グラフの読み取りは県平均より10.2ポイント低く課題が見受けられる。	・算数の授業だけでなく、社会などの他教科でも棒グラフを読み取る学習において、ていねいに指導する。 ・文章問題の演習を多く取り入れ、文章から立式できるようにするとともに、どのような場面でどの式を使えばよいかなどを助言する。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.7	70.9	69.4
	生命・地球	69.7	69.8	70.1
観点	科学的な思考・表現	53.5	59.7	57.7
	観察・実験の技能	76.5	73.0	72.8
	自然事象についての知識・理解	70.8	74.1	73.9



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○導線の安全なつなぎ方では県平均より10.5ポイント、ソケットを使わない場合の豆電球の明かりのつけ方では県平均より3.1ポイント高い。電気分野は理解することができている。 ●虫眼鏡で集めた光の明るさやあたたかさの違いがわかるでは17.7ポイント、物は体積が同じでも、種類によって重さが違うことを説明できるでは12.6ポイント低い。違いなどを説明することが苦手である。	・「小さい物は軽い」というような曖昧なイメージを払拭するためにも、実験の後には、実験結果を予想と比べながら学級全体で共有し、物の重さについて考察していくようにする。 ・既習の知識を使いながら、「～だから、・・・なる。」など説明をする問題を多く取り入れて行っていく。
生命・地球	○方位磁針を正しく使うでは県平均より9ポイント、温度計の目盛りを正しく読むことができるでは県平均より6.7ポイント高い。基本的な器具の使い方、読み取り方はできている。 ●昆虫の生活場所がわかるでは県平均より15ポイント、植物のからだのつくりがわかるが県平均より5.6ポイント、昆虫が特定の場所にいる理由が説明できるが6.7ポイント低い。身の回りの昆虫や植物についての知識に不足が見受けられる。	・観察をする機会を多く取り入れ、観察を通して実際に見たり触ったりする回数を増やし、身の回りの動植物の昆虫や植物の知識を増やしていくようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」について92.9%の児童が肯定的回答をしている。「だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」児童が73.8%おり、県よりも9.6ポイント上回った。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」と答えた児童は90.5%で学校だけでなく家でも勉強することの大切さをよく理解しているとうかがえる。さらに家庭学習の習慣化が図れてきているので、今後も継続して指導する。

○「クラスは発言しやすい雰囲気だ」と85.7%の児童が回答し、県を8.2%上回った。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」は83.3%の児童が肯定的回答をし、県を15.7%と大きく上回った。児童は話し合い活動を活発に行い、互いに学び合っている姿がうかがえる。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と答えた児童は45.2%と低い、言語活動において、児童の様々な考えを引き出し、思考を深めるような指導や発問の工夫をし、自分の発言に自信をもてるような取り組みをしていく必要がある。

○「毎日、朝食を食べている」児童は95.2%、「早寝早起きを心掛けている」児童は81.0%で県とほぼ同じであった。家庭でも規則正しい生活をしていることで学校でも落ち着いて生活できているとうかがえる。今後も家庭との連携を深めていきたい。

●県と比べてポイントが低いのが「家で学校の授業の予習をしている」42.9%で県平均より-10.5%、「家で学校の復習をしている」50.0%は-10.3%である。これらの結果から家庭で同じ時刻に宿題に取り組む習慣化は図れているが、自主的に学習することには課題がある。今後、自主学習の手引きに従って学習に積極的に取り組ませる工夫をし、継続して指導する。

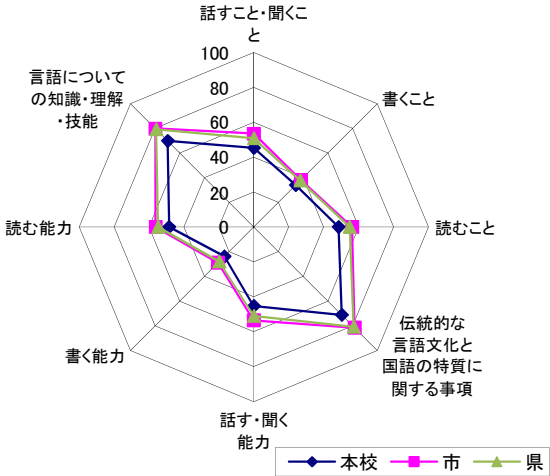
●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」が23.8%で県平均より-16.9%、「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べる」が31.0%で-21%と大きく下回っている。社会科や総合的な学習の時間で本やインターネットを利用した調べ学習を行う中で、課題解決に向けた調べ方を学び、実践を通して調べる方法を身につけて行けるよう指導する。

●「漢字の読み方やことばの意味が分からない時は辞書を使って調べている」は52.4%で県平均より-17.8%と大きく下回っている。国語辞典や漢字辞典の使い方を学び、授業の中でも日常的に使えるような環境を整え、分からない時には辞書を使う習慣を身につけさせたい。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	45.3	53.5	50.9
	書くこと	34.0	38.1	37.6
	読むこと	48.5	56.3	54.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	81.6	80.8
観点	話す・聞く能力	45.3	53.5	50.9
	書く能力	23.8	29.0	28.0
	読む能力	48.5	56.3	54.9
	言語についての知識・理解・技能	69.8	79.8	79.1



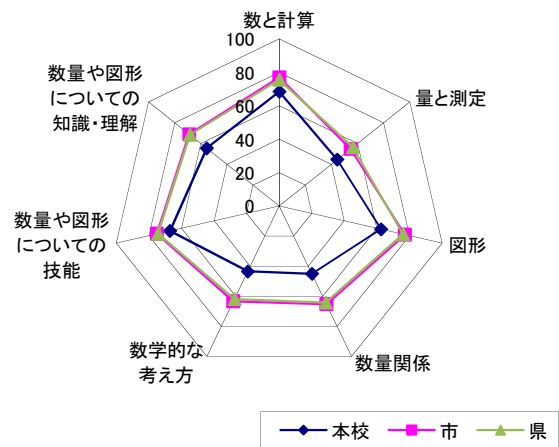
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は45, 3ポイントで市に比べて8, 2ポイント低い結果となった。特に発表原稿の作成の相手に分かりやすく説明するため適切な資料を提示することができるかを問う問題では県の平均に比べておよそ20ポイント低い。	・コミュニケーション能力の育成を図るために、国語の授業だけでなく、学級活動や会話科のことばの時間を有効に活用していきたい。 ・さまざまな授業において話し合いや学び合いの場などを設定していく。
書くこと	●領域の平均正答率は34.0ポイントで市・県に比べておよそ4ポイント低い結果となった。与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことに課題が見られた。	・すべての授業で辞書を使用し,たくさんの言葉の意味に触れる機会を増やしていく。 ・生活の様子から,問題文を理解できていない可能性がある,ので,落ち着いて問題文や聞かれていることを理解させていきたい。場合によっては教師とともに考える。
読むこと	●領域の平均正答率は48.5ポイントで市・県に比べておよそ7ポイント低い。説明文の内容の理解,物語の内容の理解においてのすべての項目で県の平均を下回っている。	・さまざまな教科やさまざまな場面で言葉を知る、漢字を知る、意味を知ることについて指導していく。 ・語彙力や表現方法などを理解するため朝の学習の読書の時間などを利用していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は71.3ポイントで市・県に比べておよそ10ポイント低い結果となった。特に第3学年配当漢字を書くことができるかを問う問題では校内正答率が36.0ポイントである。	・毎日漢字10問テストを実施していく。 ・漢字練習の宿題などを通して繰り返し学習する態度を育成していく。 ・日記の宿題では既習漢字を使うよう促していきたい。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.5	77.0	75.6
	量と測定	44.5	54.7	56.4
	図形	62.5	77.2	76.2
	数量関係	45.1	65.3	64.2
観点	数学的な考え方	43.5	63.4	61.9
	数量や図形についての技能	67.1	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	55.5	69.0	68.3



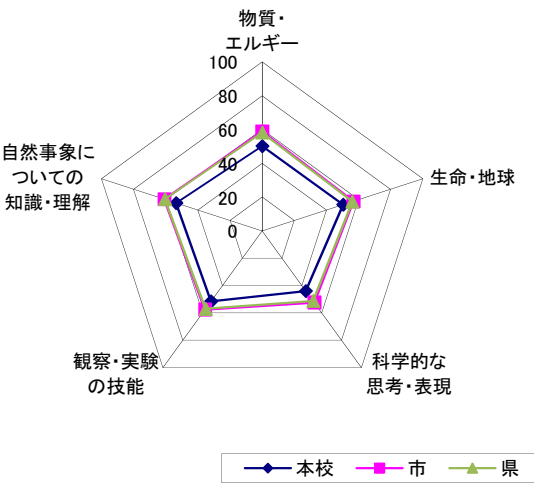
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ ●平均正答率は市と比べて8.5ポイント低い。小数を扱う計算やあまりのある計算・空位のある計算では、位取りの仕方や小数点をつける位置に課題がある。また、数学的な考え方を問われる問題では、市の平均正答率よりも19.9ポイント低い。問題文から適切な式を作る事ができない実態が見られる。	・習熟度を高めていくと同時に小数の相対的な大きさなどの理解を深める必要がある。そのために、授業だけでは不足しがちな計算練習を朝の学習の時間を活用して行う。その際には様々な問題に取り組むのも一つの方法ではあるが、児童の実態を考え、同じような問題に繰り返し取り組み、小数の相対的な大きさをつかませながら、基本的な技能の習得を図るようにする。
量と測定	○ ●平均正答率は市と比べて10.2ポイント低い。正方形の面積を求める問題や角の大きさの見当をつける問題で誤答が多い。また、mとcmの関係を理解しているか確かめる問題では、平均正答率は前年度よりは高いが、県の平均正答率よりは低く、十分に理解しているとはいえない。	・身近な物を取り上げmとcmの関係を把握させる。また、授業中の様子から問題文を十分に読みとっていないことが考えられるので、教師と一緒に問題文の意図を確認しながら読み進めていくようにする。
図形	○ ●平均正答率は市と比べて14.7ポイント低い。対角線の性質や平行な辺を見つける問題、直方体の展開図を理解しているか確かめる問題の全てで県の平均正答率を下回っている。特に対角線の性質を理解しているか確かめる問題では、県の平均正答率を21.7ポイント下回っている。	・作図や算数的な作業が不十分であることが伺える。したがって、知識としてだけでなく、視覚に訴えたり作業を通して体で覚えたりするなど、体験的な活動を通して理解につなげるようにする。
数量関係	●平均正答率は市と比べて20.2ポイント低い。文章問題から四則混合の式や()を使った式を作ること、分配法則が適用できる問題で式の意味と問題を結びつけて説明する問題で理解が不十分である。また、表を読みとったり伴って変わる二つの数量の関係を式に表すこと、複合図形の面積を求めたり、折れ線グラフを読みとったりする内容で課題がある。特に伴って変わる二つの数量の関係を式に表す問題では、昨年度を大きく下回っている。	・四則の計算の決まりの復習をするとともに式には意味があることを改めて確認し、朝の学習の時間を活用して計算練習をする。また、グラフや表の読み方の練習をし、二つの数量の変化を読みとり簡単な式を作れるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.3	59.0	58.2
	生命・地球	50.5	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	44.0	52.5	51.3
	観察・実験の技能	51.6	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	53.5	60.9	60.5



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○熱の伝わり方を理解しているか確かめる問題では、県の平均正答率と同程度である。 ●平均正答率は市と比べて8.7ポイント低い。科学的な思考・表現を問われる問題では市の平均正答率よりも8.1ポイント低い結果となっており、実験観察の見通しや予想を立てること、結果を踏まえての考察などに課題が残る。	・実験的な内容であれば事前に実験方法について児童同士が相談する機会を多くし、記録することを徹底する。また、準備物や手順などをより丁寧に説明することで迷わず進めることができるようにし、実験方法の定着を図る。また、比較実験であれば比較したい対象をより明確にすることで、その他の条件は同じにすることを意識できるようにする。
生命・地球	○月や星座の位置や並び方、星座早見の扱い方は県の平均正答率と同程度である。 ●平均正答率は市と比べて6.3ポイント低い。また、自然現象についての知識・理解については市の平均正答率より7.1ポイント低い結果となっている。授業中の観察から、活動的な内容や視覚的に見える現象については関心を示すが、考えたことやわかったことなどを言葉やその他の方法で表現することに苦手意識をもっている児童が多く、人任せになっている様子が伺える。	・本校は自然が多く植物や昆虫などに親しむ児童が多い。観察のポイントを絞り、自信をもって発言できるようにする。また、その際には言葉だけでなく図表やグラフなど多様な方法で表現できるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題

○1か月の読書量は「11冊以上」が34ポイントで市や県よりも10ポイント以上高い。

○「毎日、朝食を食べている」の質問には「はい」と「どちらかといえば、はい」を合わせて100%である。

○音楽や図工、体育などの活動的な教科を好む児童の割合は市や県よりも高い。

●平日のゲームをする時間が1日当たり4時間以上という児童が12%おり、市や県よりも4ポイント程度高い。放課後の時間の良い生活について子供たちには日常の朝の会や帰りの会を通して、保護者へは学級懇談会や学年便りを通して伝えていく。

●授業に関する取り組みの姿勢は全体的に肯定的な回答が低い。また、予習・復習等の家庭学習に対する関心も全体的に低い。放課後や休日の過ごし方は、学習よりもゲームや外遊びなどへの関心が強く、宿題を含めても家庭学習の時間が十分でない実態が伺える。また、「家で学校の宿題をしている」の質問には、「はい」と「どちらかといえば、はい」を合わせると肯定的な回答があるが、登校してから取り組む姿も見られ、実態と合っていない状況も見られる。これらのことから、興味の持てる教材・内容を選択し、モルステップで目標を設定し、達成したら励ましの言葉かけを多くするなどして、学習への意欲付けを行っていく。

●「授業を集中して受けている」の質問には市よりも14.4ポイント低い。授業時間と休み時間のけじめをつけたり、休み時間にしておくなど、学習に対する意識を高めるようにする。生活の決まりなどを活用し、決まりの良い、けじめのある生活を実現する。状況などを判断して生活していけるようにする。

●「見てはいけないサイトにつながらないようになっていますか」の質問には「いいえ」と回答した児童が14%おり、市や県よりも高い。宇都宮市情報モラル年間指導計画の教材などを活用し、児童や家庭に働きかけていく。安全な活用の仕方やセキュリティの時の対処法などを理解させる。また、学年便りや学級懇談会等の話題にするなどして、児童に対して保護者と同一歩調で取り組む。

が見られるもの

）使い方や決ま
きたい。
い。児童の実
確保されてい
答が100%で
扱ったり、ス

は学習準備を
ことで時と場、

8ポイント以
「ティー、いざと
指導できるよう